

For Adults Only

LAUREL

Chapter:4

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

淫魔ローレル・ブルーム
勇者として生み出されたもう一人の私
同行者の裏切りがきっかけで、
魔王アリアの手によって魔族となった。

「ローレルシリーズ」
私を素に生み出された
人工生命体。どうやって
生み出されたかは不明で、
世界中に戦火を振り撒く。

淫魔ローレルもその一人
魔王アリアの下へ
送られた一人だった。

あいつの話によると

同行者はグラーフ家の
長男デイル。貴族だ。
勇者となった私を目的
敵にしていた腐れ縁だ

魔族へと堕ちたローレルは
自分の生まれた理由を知り、
各地に送られた他のローレル達を
次々と墮とし自身の戦力としていった

あいつの進撃は止まらないだろう
自身を生み出した「トリル王国」を
滅ぼすその日まで…

正直、勇者ならばあいつを止めるのが正しいのだから...だけど、法国に好き勝手された怒りは私にもある。名誉毀損もクソもない



一度痛い目を見るとさえ思っているくらいだ。それに...

尊厳もなく何もかも奪われ否定されたあいつの顔...私と同じ顔で恨みに満ちたあの顔...まるで自分の内面を映しているように見えて、止める気が起きないのだ...勇者失格だな...私...

ローレル様!

ローレル様!

ぼーっとしながらの食事はだめですよ!

あ、ああ...すまない

また、あのローレル様のこと考えてたんですか?



ああ...

もうっ!

私も思うことはありますが、今考えてもなんの解決にもなりませんよ! 正直、他の個体の被害は減りましたが...

そこなんだよ

ですけども! 今は食事中!

はい

今は法国に対する情報と協力者を募るのが先決ですから、今はそれだけを考えていきましょう!

そう...ね



うん、そうだね

それでこそローレル様!



悩んでも仕方ないね 私は私のできることをやるよ



では、私は教会でお祈りを済ませてきますね



魔王領へ行った人形共は全滅か。人的損失を防げるという話だが、結果としては予算を食い尽くすだけではないか。

息子も人形とともに魔王領へ行って長らく連絡がない。やはり行かせるべきではなかったか。

現状、我が国の人形兵の戦力は半減。後方で固めていた戦力を前に出すことでなんとか戦線を維持していますが…頼みの綱の聖女ルチルも今や生死不明…

やはり、教えに背いてあの古代文明の遺跡を起動させるべきではなかったのでは？

ましてや、勇者の複製など…

カラドウッド司教？

何をいうか!!

あの遺跡なくして我が国の繁栄はなかった！遺跡は我が国へ神々からの贈り物だと貴様も言ったではないか！

確かに人形共の数こそ減らしたが遺跡は今なお複製を生み出し続けている。戦力の減少は一時的なものだ。

それに…

すでに次の手も打っている

ごくん…

数日後…

ローレル様、「アニヤド」まで
あと少しです

そういえば…

アニヤド…

ルチルは無事だろうか

少し前に隣国の襲撃があつて
そこから不明で

あっ…

ユエル！

ドッザッ

ユエル！
大丈夫か!?

しっかりしろ！

少しの辛抱だ
ユエル！

すごい熱だ…
アニヤドに急がないと

…っ！

ひと通りの処置はしました

呼吸も少し落ち着いてきましたから、少し様子を見ましょう

ああ...

突然ローレルさんがいらしたので驚きましたが、間に合いましたね

それに...

それに?

あいえ! こっちの話なので気にしないでください!

そうか?

ほんと全然気にしないでくださいね!

魔族になっても変わらないな

ルチル

ローレル耐性0

魔族に堕ちたのに対応変わらないとか、ほんとこの人っ!!

ユエルさんなのですが、私と同じ神聖の力があるのですが、その力の流れがめちゃくちゃになってます

そんなままではユエルの体に大きなダメージが出るかもしれません

一体どうしてこんな...

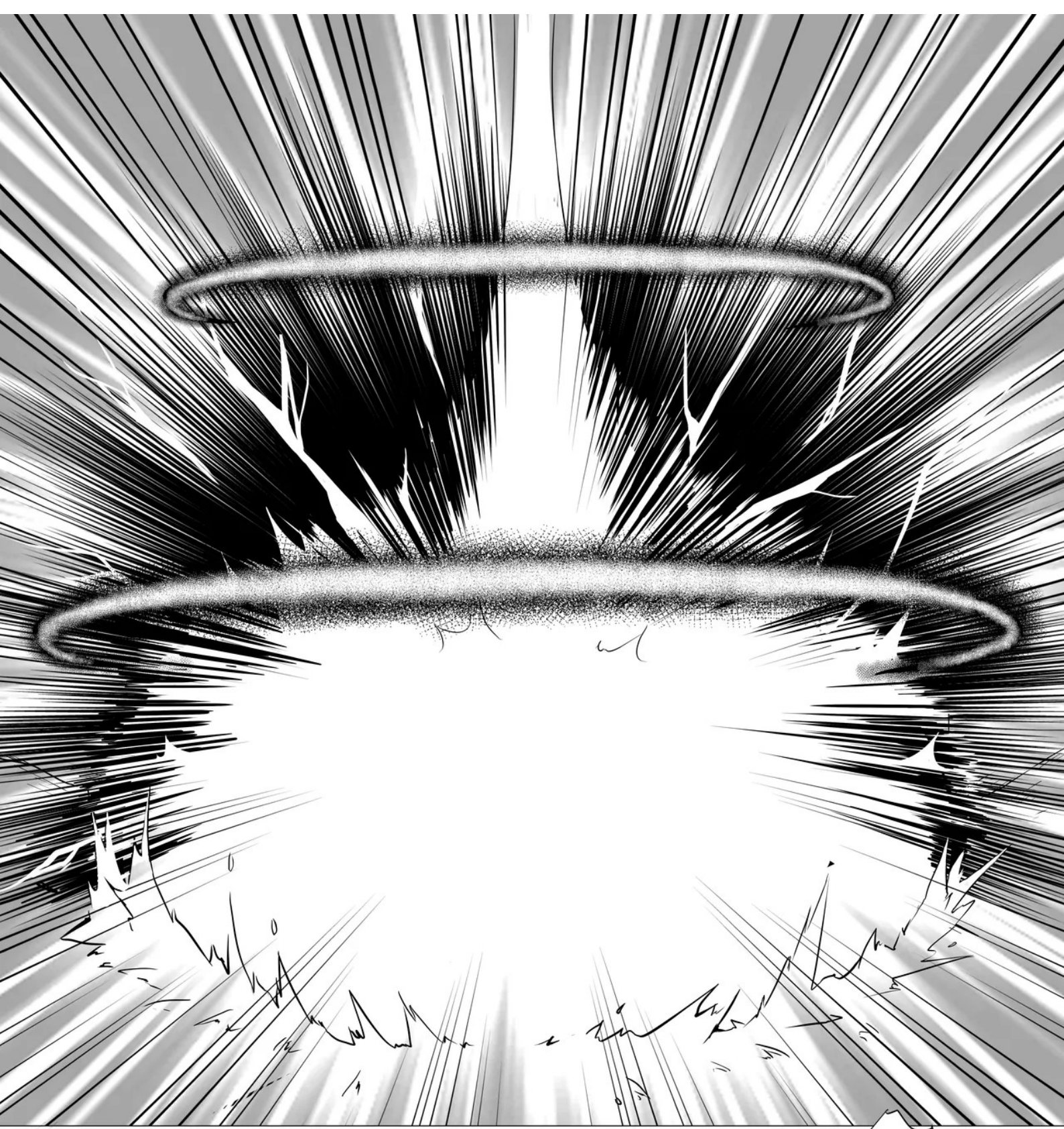
だめよルチル

そ、それよりもユエルさんなのですが!

落ち着くのよユエル!

危ない!

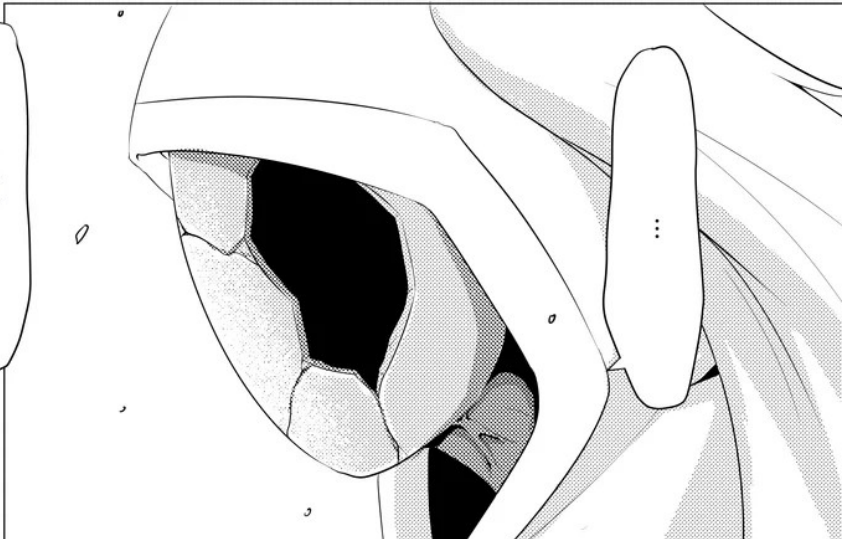
きゃあつ!!

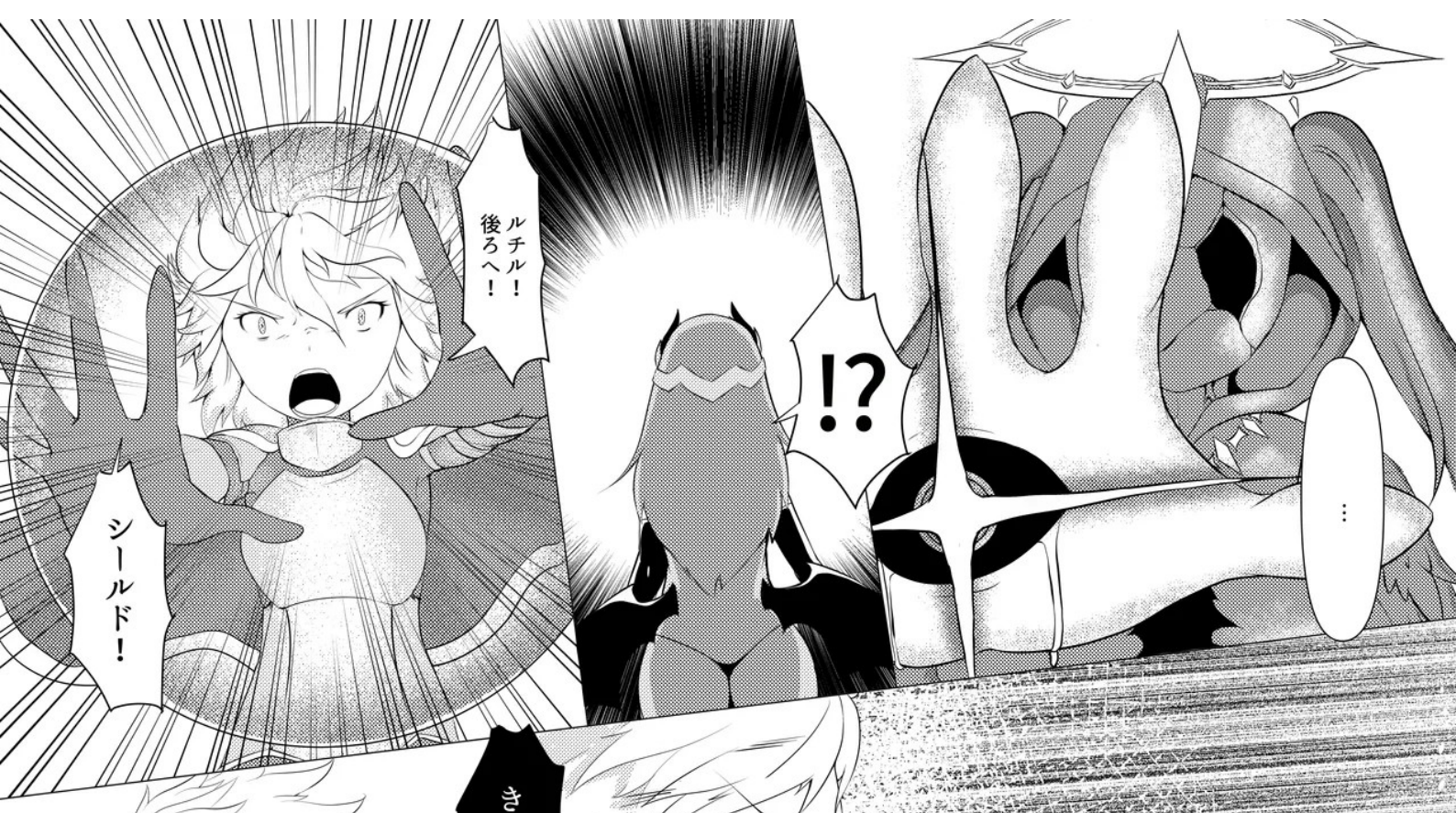


はい、一体なにが…

大丈夫か!?

!





ルチル!
後ろへ!

!?

シールド!



きやつ!

すまん
ルチル!



はあはあ...なんて威力...

ドラゴンのプレスも耐えたシールドが
こうも突破されるとは...

その人間、下がれ



その者は天使の種としての領域を不正に踏み込んだ。故に、我がその者を処分する。

殲滅天使 イリア

貴様は勇者ローレルだな？
なぜ、魔族と共にしているのかは
わからんが…邪魔をしないでらおう



て、天使…様？

まさか天使様が…
なんで…



もう一度言う。
そこを退け。

人間

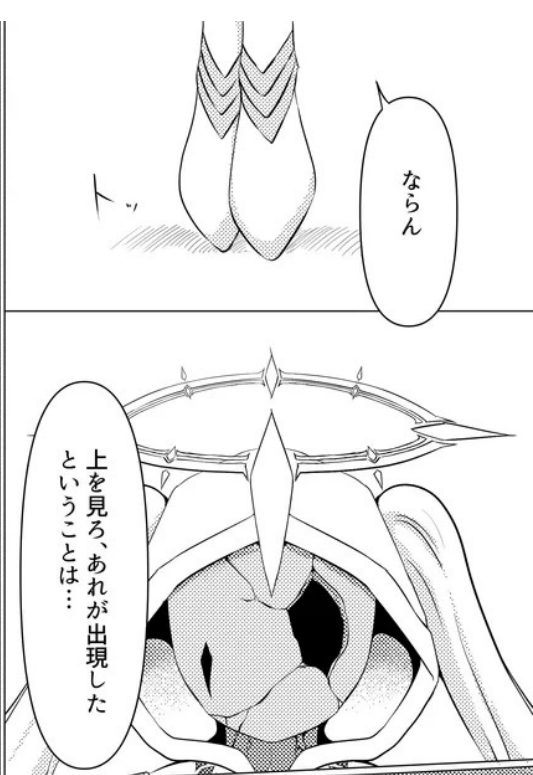
ま、待ってください！
あれは私の仲間なんです！
元に戻す力を貸していただけませんか？！

天使様！



しかし、こいつはその資格はない
故に滅さねばならない

その身の半分以上は人間ではなくなっている
あれは人間が天使と成った時のみ現れるもの



ならん

上を見る、あれが出現した
ということとは…



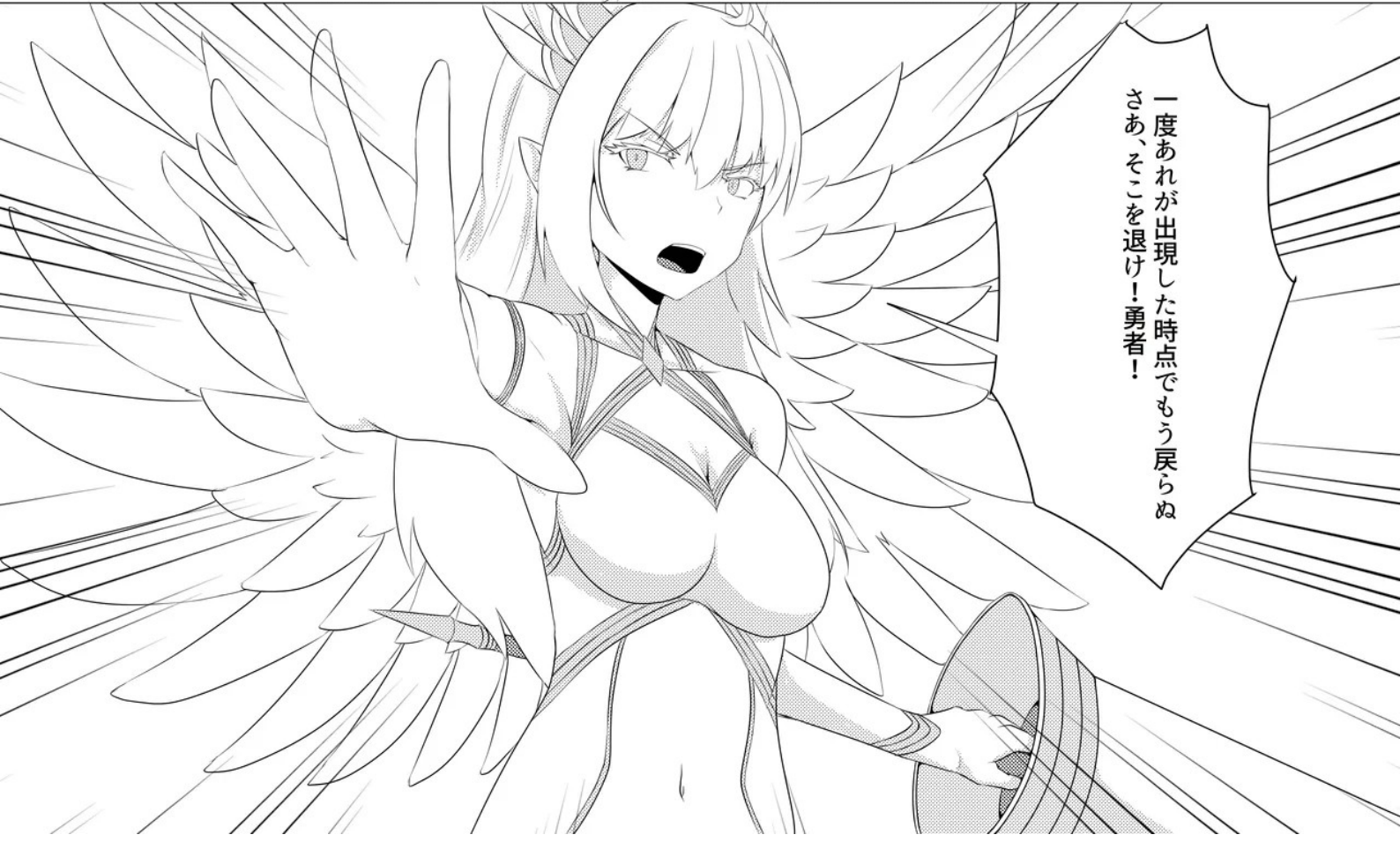
その体では無理だ

こいつ…諦めの悪さは
流石勇者というべきか…だが



私が引きずり出して
元に戻します！

半分：
ということは、まだ人間の部分がある
ということなんですね！



一度あれが出現した時点でもう戻らぬ
さあ、そこを退け！勇者！



バインド



ちよつと幻滅したなあ



結構物騒なんだね

ゴツ

ゴツ

私も堕ちる前は天使様を
信仰していたけど…



拘束魔法!?
…これは闇の力か



この魔力…あいつか



お前のパートナー、とんでもないことになっ
てるじゃないか。
手伝ってやろうか？勇者さん？

貴様!?



貴様の手を借りずとも、
こいつは我が滅してくれる!

邪魔をするな!



ナイス連絡だよ
ルチル。



まさか、お前が
ルチルを墮としたのか？

なぜルチルを…



です♡





助けなければ

お前の手で墮とせ。勇者よ



もつとも、選択するのはお前次第だ。
そのまま殺されるのを指を啜えて見ただけか、
魔族に墮としてでもあいつを生かすか？

少しだけ時間を稼いでやるよ。
慌てず急いで念入りに考えるんだ。



あいつを人間のまま
終わらせてやろうとは
考えないのか？

見たところそれは「邪竜の核」だ
あいつだけでなく、お前も墮ちるぞ



待て



このままだと、ユエルは天使に殺される…
墮とさないとユエルは生きられない…



でも、何もできないまま
終わるのは嫌だ…
ユエルを墮とすのは大罪



ユエル

その罪は
私が全て背負おう



私は勇者だ。どんな形でも
どんな姿になっても…
君を生かしたい！だからっ



天使様の言う通り、人間の尊厳を保つなら、
このまま信仰している天使様に任せて
終わらせてやるのが、教えを守るユエルに
とってはいいのかもしれない…

少し我慢して
くれよ？



熱い…それに、これは邪竜の意識なのか？私を塗りつぶすつもりか？

ぐっぐっぐっぐっぐっ！！

願え…喰らえ…奪え…
全てをお前の望むままに



この体も記憶も全部私のものだ！ユエルも私のものだ！お前やお前たちに奪われてなるものか！

かああああアアアアッ



しっかりとしてください
ローレルさん！

お前が望むままに
うるさい！！



流石勇者ローレル



そうまでして生かしたいのか？
それにしてもこいつ…

邪竜を喰うつもりか





ユエル!!

私は君を
失いたくない!

戻ってこい!!
ユエル!!



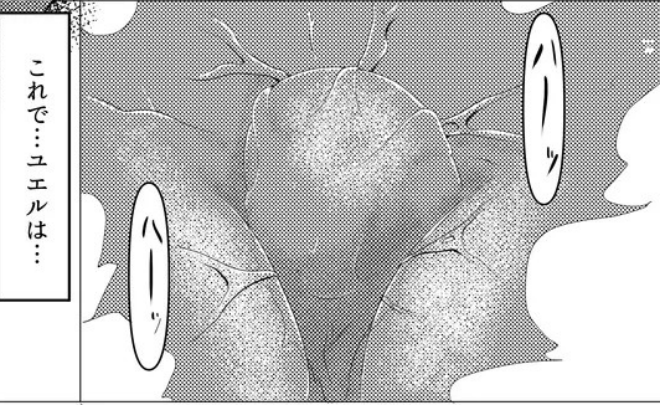
いや、成功だ

第一段階は



あれ...?

動かない...?



ハッ

これで...ユエルは...



やあああああ

説明しよう
邪竜の核は肉体に植える
だけでは駄目なんだ

邪竜の核
(種)
+
魔力の元
(水・栄養)

植物の種を植えても水や栄養
がないと芽吹かないのと同じで
魔力がないと駄目なのだ

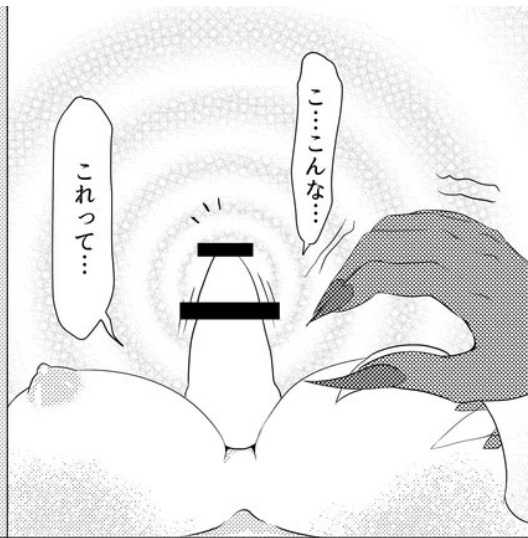
体が熱い...

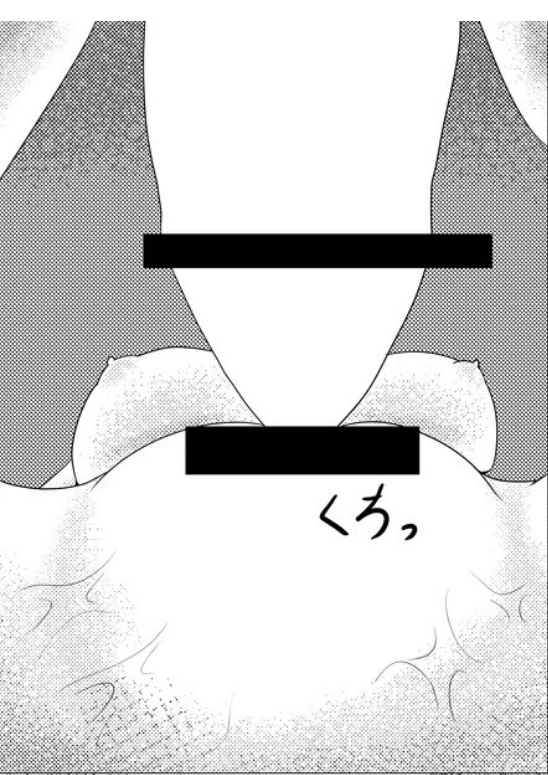


第一段階って...
うわ!なに触ってんの!?

ちよっ...やめ!
ばか!服を消すな!?

第二段階の準備よ?
回復もしてあげる





くちっ



私の宝…ユエルの全部
邪竜だもん、宝は私のもの



ユエル…
ユエルツ…!!



これが…

甘…



これっ…すずっっ…♡

やちゃった…♡



ユエルの膣内あ
気持ちいよおおっ♡

おち○ちんを通してユエルの事がわかる♡
ユエルも気持ちよくなってるんだね♡

ユエルツ♡ユエルツ♡

ごめんね…駄目な勇者で♡

でもっ…♡
ユエルともっとしたいの♡

あ、なにか来るっ♡
だめっ♡

ユエルの膣内っ♡

イッ
ちゃっ
うっ
うっ
♡♡



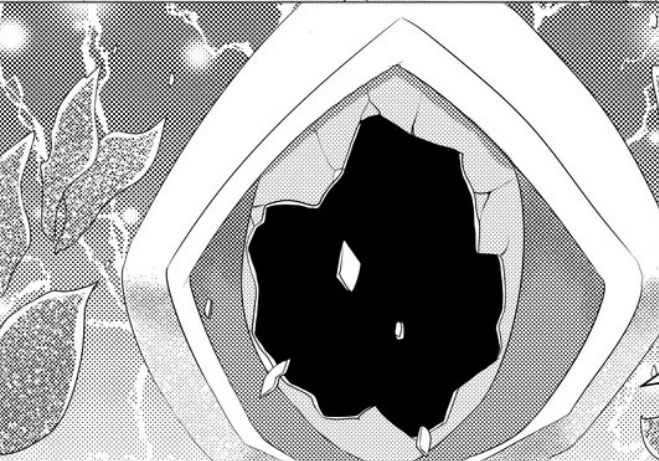


ごめん…ユエル…



私はユエルの…

あつ…わたし…
ユエルを…



…!!



始まったか…



あははっ

ん…♡

やっと帰ってこれた♡



ローレル様あ♡
ユエル戻ってきましたあ♡

ユエル…

本当にすまない…
私が不甲斐ないばかりに君の…



ユエルがどうしてあんなことになっ
てしまったのかも理解しましたし



いいんですよ。囚われてる私を助けよう
としてくれたのは見えてましたので♡

ローレル様が何度も何度も
私の名前を呼んでくれて
ユエルは幸せですよ♡



助けてくれて
ありがとうございます♡

ローレル様？

ごめん…君の初めても…

ローレル様のおちん○ん
すごく良かったですよ？

あうう…

かわいい…♡

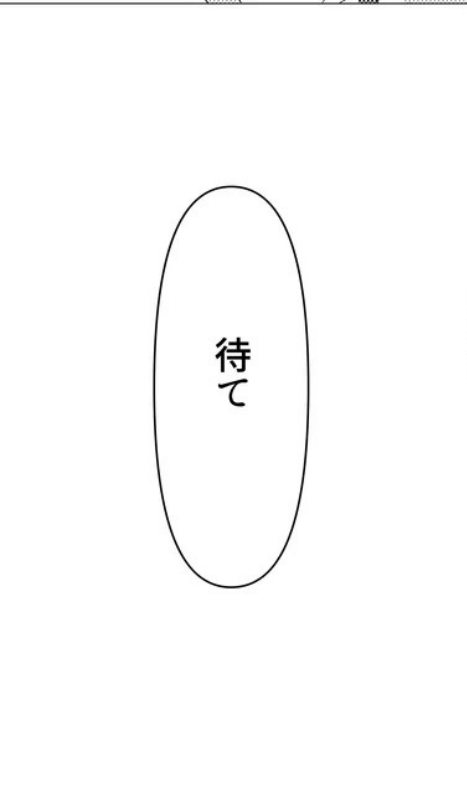
ローレル様？
これからも一緒にいたいので…

あなたも
随ってください♡

本当はこんなこと間違ってる…
そんなことわかってる
だけど…ユエルはもう誰にも盗られたくない

ユエルの心も体も
全部全部全部ぜんぶっ

わたし
邪竜のものなんだから♡



これがあなたの問いの答えです♡

うわ…騒音天使…

誰が騒音天使だ!!

声デカっ…
なんの用?

疑天使化を邪竜へと転化させることで
我が二天使として処分を下すことができなく
なった手腕を褒めてやる

そこで貴様に聞きたい

あの二人の顔を見ていたら、
私の考えは間違っていたのでは
ないかと思ってしまった。
貴様なら何が正解だと思う?

知らん

はあ!?
こっちが真面目に
質問してるのに貴様はっ

そんなもん、本人にしか
分からんよ

大体、私が堕ちて墮としてをしているのも
正しいのかも正解なのかも分からん。
正解かどうかは死ぬ直前で分かるもんだろ?

貴様…

こいつは…

ただ一つ
言えるのは

わたし あいつ
偽物も本物も
やつと自分の生き方を選ぶように
なつたつてことよ

奥付

タイトル：LAUReL4

発行日：2024年12月30日

イベント名：コミックマーケット105

執筆者・原作：葛葉ぽて

サークル名：墮落商会

印刷会社：株式会社日光企画 様

Twitter：@kuzunoha_pote

PIXIV:2567103

mail:pote.pote.wahu.wahu@gmail.com